

## ＜指導上のポイント＞

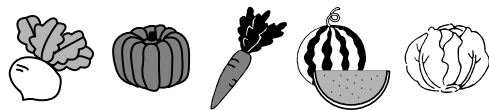
この問題集は、過去の小学校入試問題を参考に作成しました。ここでは、「仲間はずれ」の問題を集めていますが、「仲間あつめ」と呼ばれる問題も同種のものです。

「仲間はずれ」の問題を解答させるときには、言葉には個々のものを表す言葉と、仲間を表す言葉があることに注意を向けさせながらするとよいでしょう。そうすれば、表面的な音声としての言葉から、言葉の中身を考える方向に思考が向かい始め、法則性を発見する能力・思考力へとつながる道ができあがります。

仲間を表す言葉には、鳥類・動物の仲間・電化製品・台所道具・学用品・文房具・鳥類・海の魚類・川の魚類・大工道具というように、既に仲間を表す言葉が確立しているものも多いですが、問題2の一番下の問題のように足に使うものと頭に使うものを区別するものなど、仲間としての言葉が確立していないものもあります。

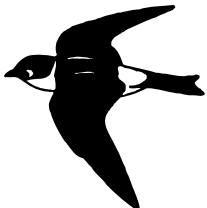
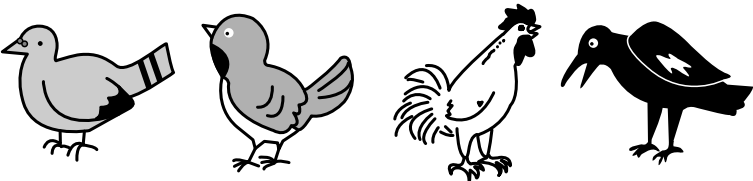

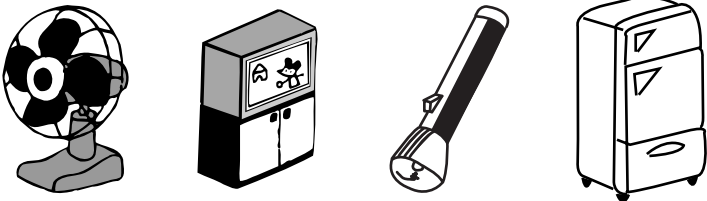
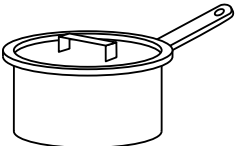
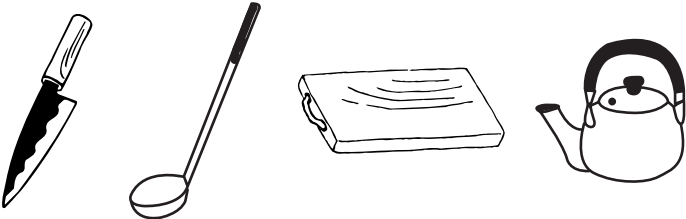


ところで、「仲間はずれ」の問題をさせるときに注意していただきたいのは、仲間としての言葉が確立していないものが出てきたときです。例えば、問題4の一番上のような問題のときの対処の仕方です。つまり、考え方によって2種類以上の仲間はずれがあるとと思われるときです。たとえば、スイカを仲間はずれと考えた人は、スイカを果物と考え、他を野菜と考えた。しかし、キャベツは葉っぱのものであると考え、それを仲間はずれと考える人もいるでしょう。スイカを野菜と考える人もいるかもしれません。

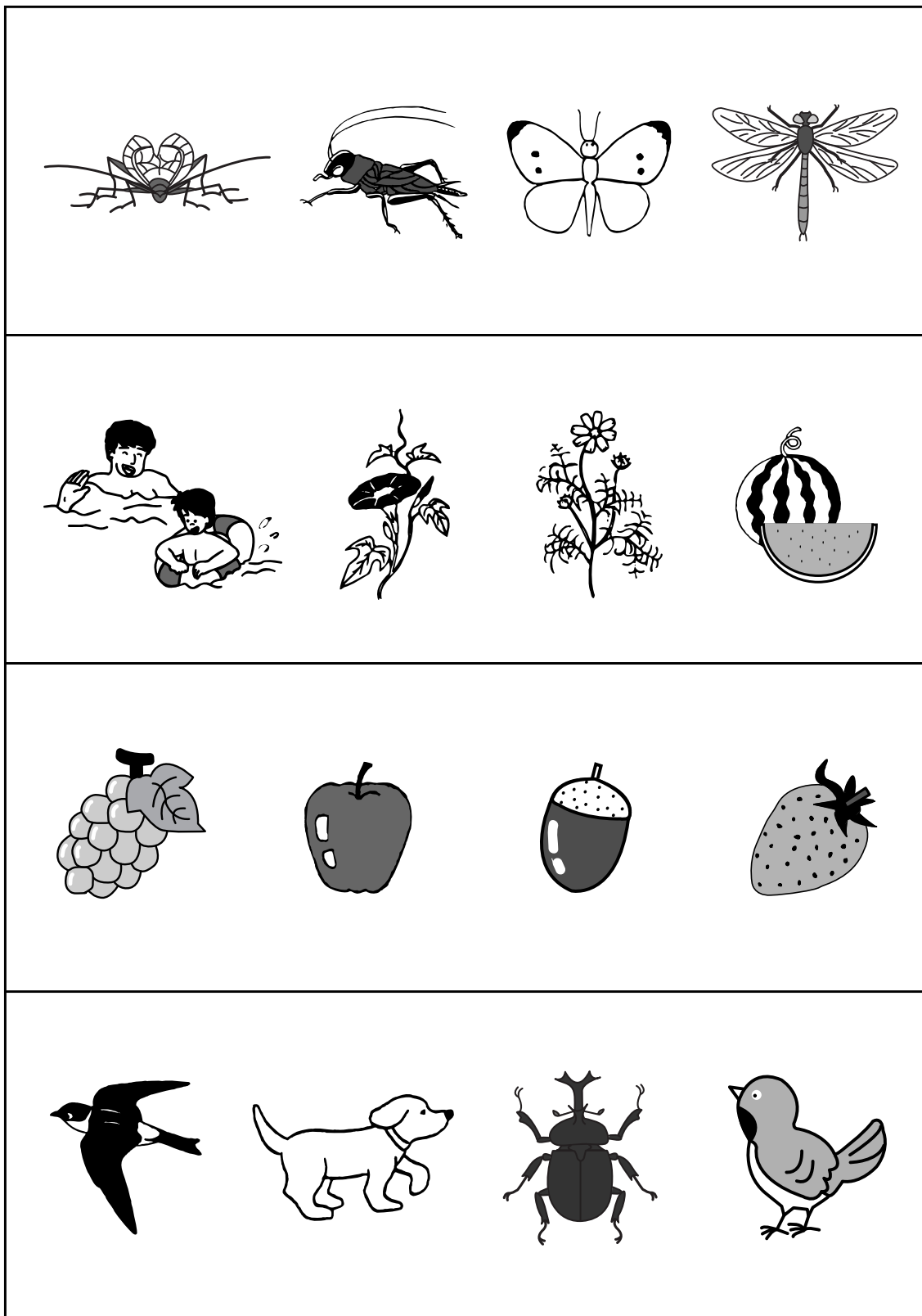


人により考え方は様々であり、「仲間はずれ」を解答する際に真に正しい解答を見つけるのは難しいのかもしれませんが、しかし、子供が答えを間違えたときには、余りにもひどい場合を除いて、「なるほど、そのような考え方もあるね。それはそれで正しいよ。でも、こんな考え方もあるよ」と言って、正しい答えを導けるような指導をすることが必要です。

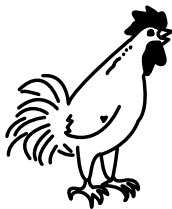
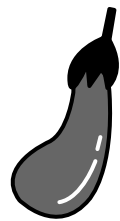
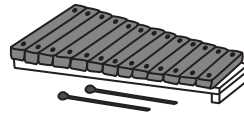
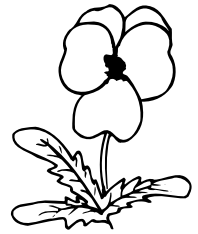
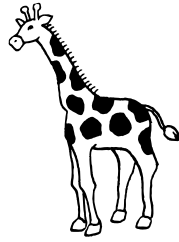
<問題1> 左端のものと、仲間でないものを見つけて、×をつけましょう。

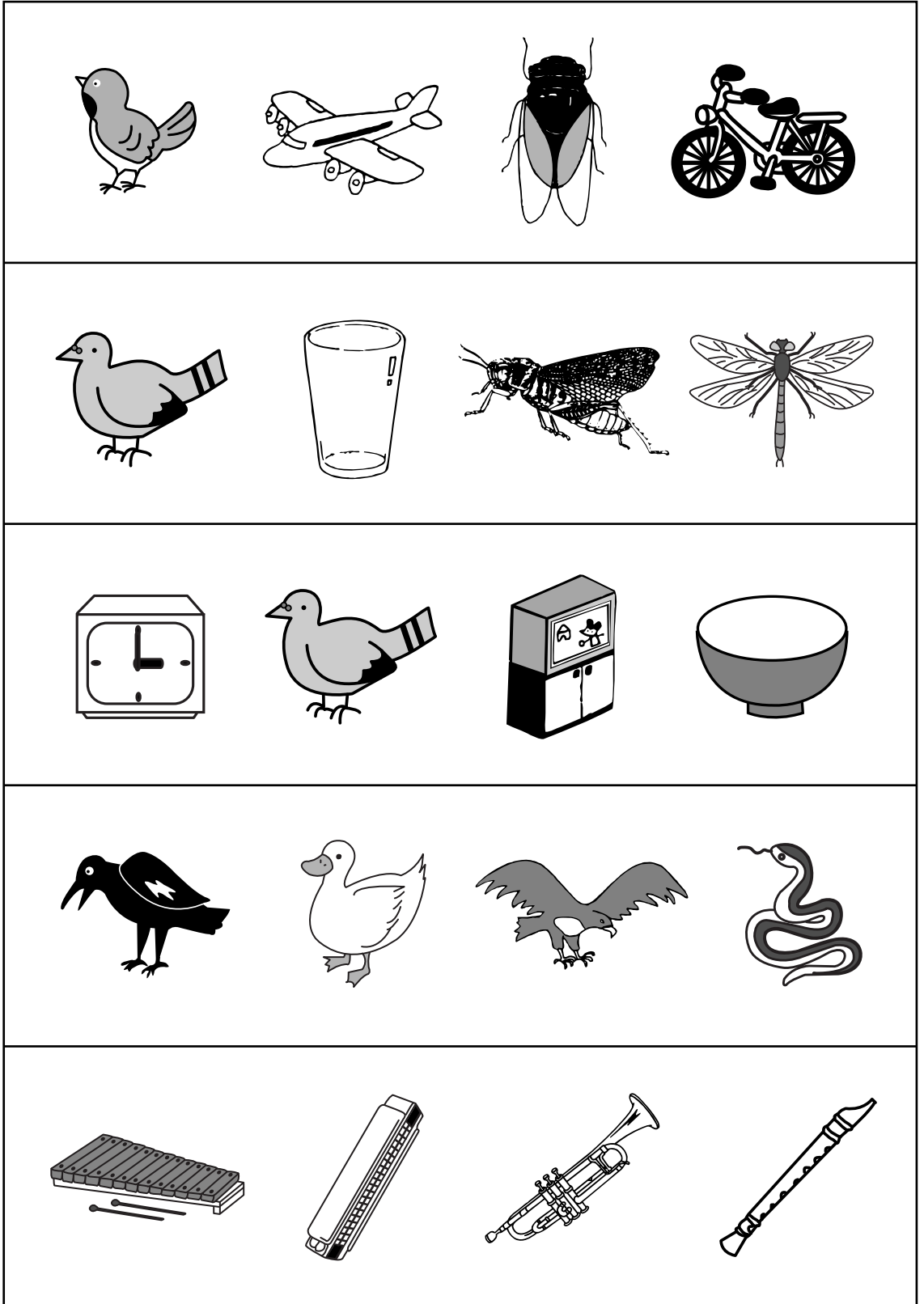
<問題 6 > 仲間はずれを見つけて、○でかこみましょう。



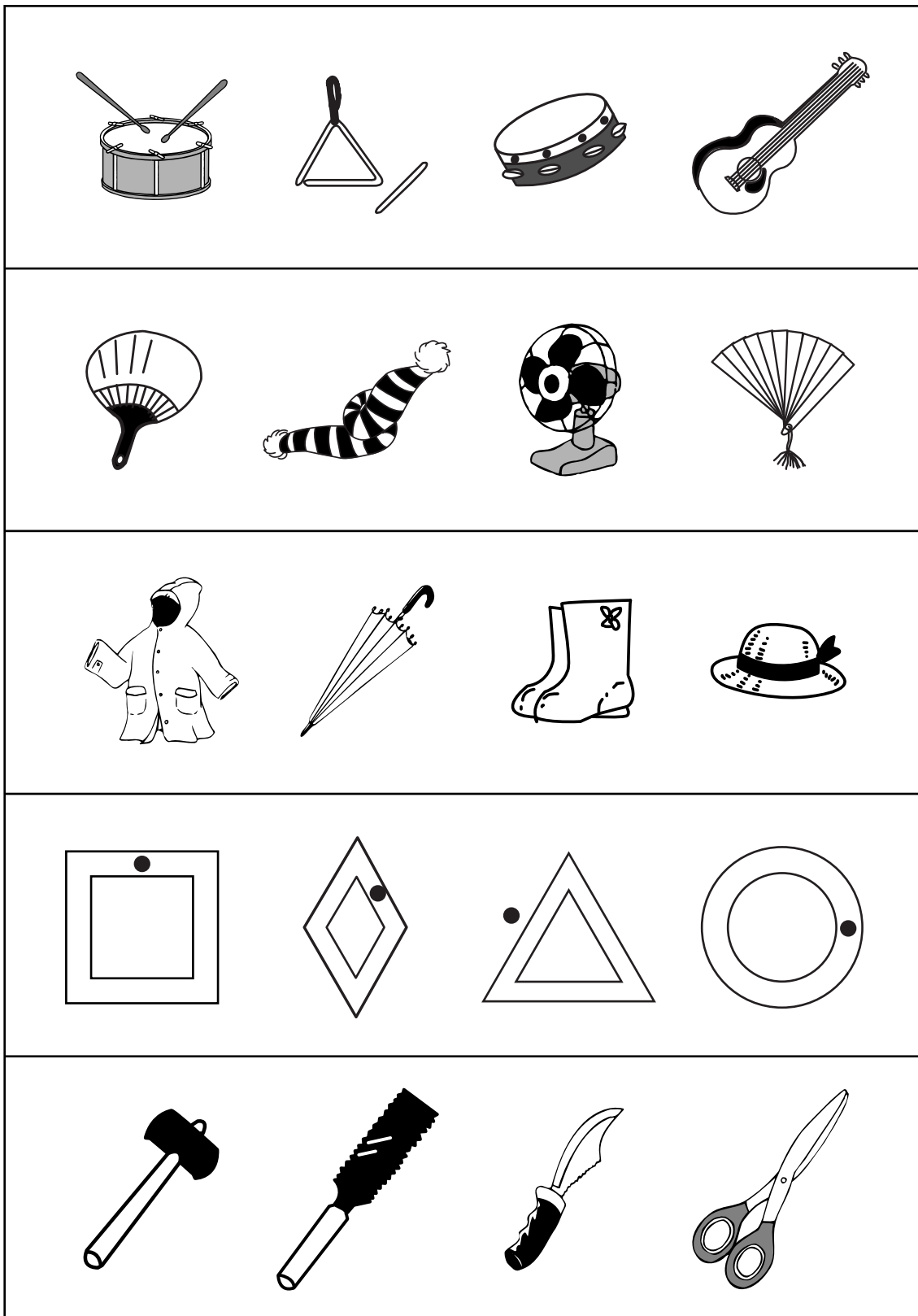
<問題11> 仲間はずれを見つけて、○でかこみましょう。



<問題16> 仲間はずれを見つけて、○でかこみましょう。



<問題21> 仲間はずれを見つけて、○でかこみましょう。



<問題26> 絵の中で、一つだけ数の違うものがあります。その絵を見つけて○をつけましょう。

